VOICE 会員の声

♥日本家庭婦人卓球連盟（神奈川＝加藤妃生子会長） 昨年十月三日から十日まで、「日中国交正常化20周年記念・日中市民文化交流事業」で、中国を訪問してきました。〝歌と踊りとスポーツを中心とした交流を〟という目的で、卓球を通して参加したわけです。北京に到着して、まず全体交流会が催されました。北京市長や、中日文化交流協会の会長である孫平化さんも出席され、フォークダンスやスクエアダンスをみんなで踊り楽しみました。

その後、それぞれのグループに分かれての交流となりました。今回、私たちの団体は「日本家庭婦人卓球団」として、二十二人が参加しました。メンバーの大半が五十～六十代で、家庭に入ってから健康・仲間づくりのために卓球を始めた人たちです。一方、中国側は二十八人。往年の名選手がかなり含まれていました。試合の結果は、キャリアの差が歴然と出たかたちになりましたが、勝敗は目的ではありません。私たちは今までにも中国の方々と親睦を深める機会を持っているので、顔見知りの選手も一緒になごやかな試合となりました。この八日間は試合だけでなく、中国のご家庭を訪問させていただき、非常に意義深い旅でした。

♥三ッ谷洋子（東京＝WSFジャパン代表） 「スポーツにも女性の視点を」といい始めて十三年目に入りました。「スポーツにおける女性の問題って、何なんだ」と、これまで男性ばかりでなく、多くのスポーツウーマンからも質問を受けてきました。

男性にはない環境面での様々な障害や、身体的生理的ハンディについて簡単に説明すると、案外、素直に「そんなもんですか」と認めてくれるのが男性。逆に、女性は現状で仕方ないとあきらめているのか「あなたのいう事はわかるけれど、いちいち口に出していうべき事じゃない」と考えている人が、多いのです。

「今は女性の時代なんだから、黙ってたって、女性の声を取り入れるようになりますよ」と、なぐさめてくれる（？）人もいます。しかし、スポーツだけでなく社会全体を見て、黙ってよくなる事って、ありますか。ありませんね。三年前から文部省が開催している「生涯スポーツコンベンション」。今年は二月二十四日です。前々回に作られた「女性スポーツ」の分科会。前回はなくなり、また今回、復活します。企画・運営委員会で会員の下条由紀子さんと私がガンバッタ成果です。